

東京女子医科大学／日本赤十字社／済生会／メディカル・プリンシプル社共同

「女性医師 再教育－復職プロジェクト」主催

医業と子育ての両立を  
女性医師キャリア相談フェア  
アンケート結果

2008/3/16

グランドプリンスホテル赤坂

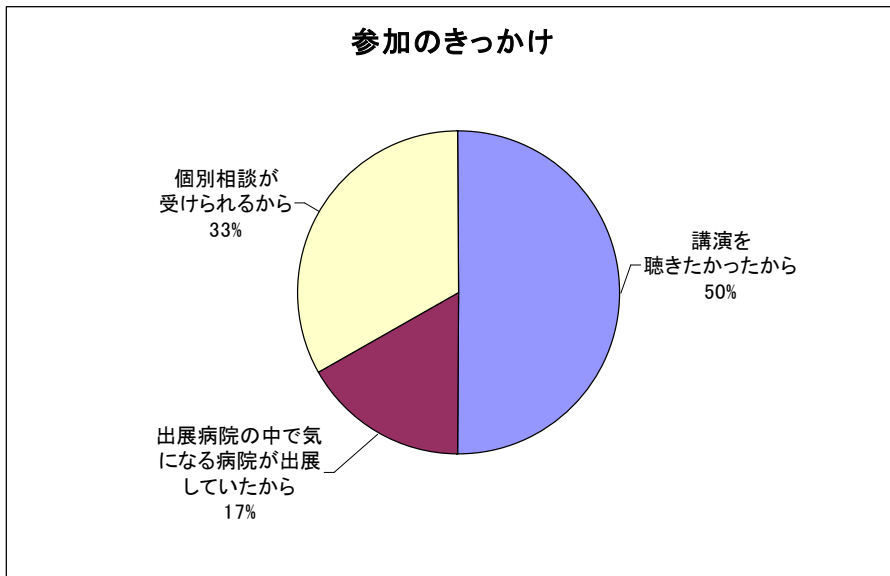
別館 5階ロイヤルホール

12：00～16：00

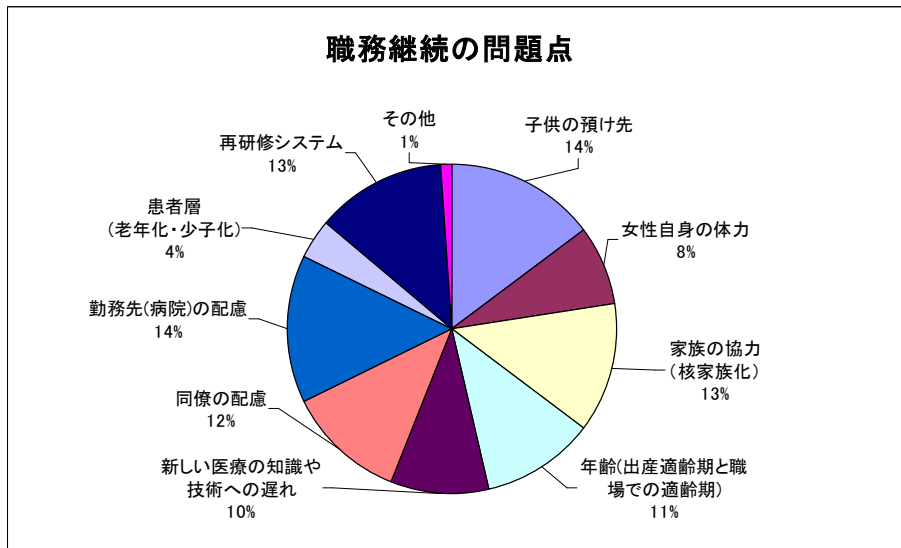
参加総数：87名

回答数：36 （回答率：41.3%）

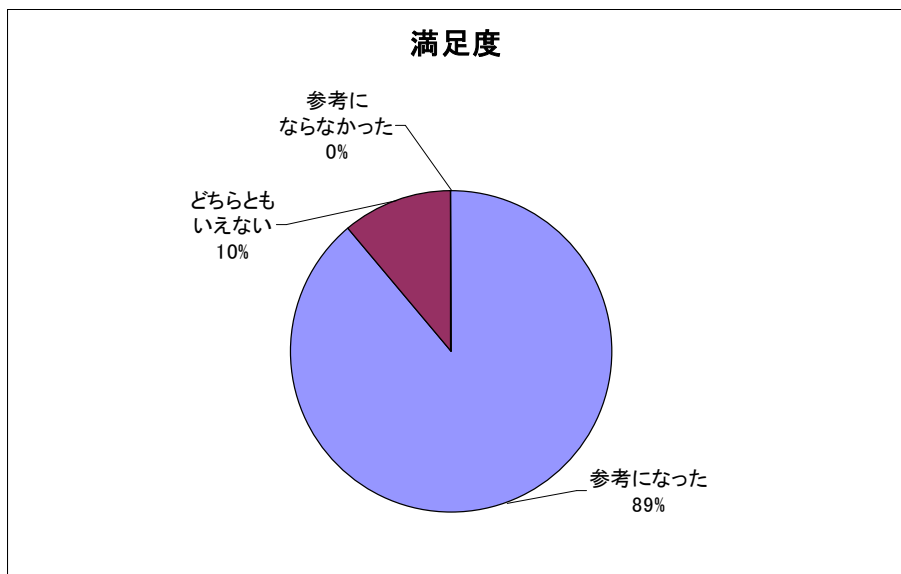
1. フェアのご参加を決めた理由は何ですか？



2. 女性医師の職務継続に関しまして、何が問題とお感じですか？



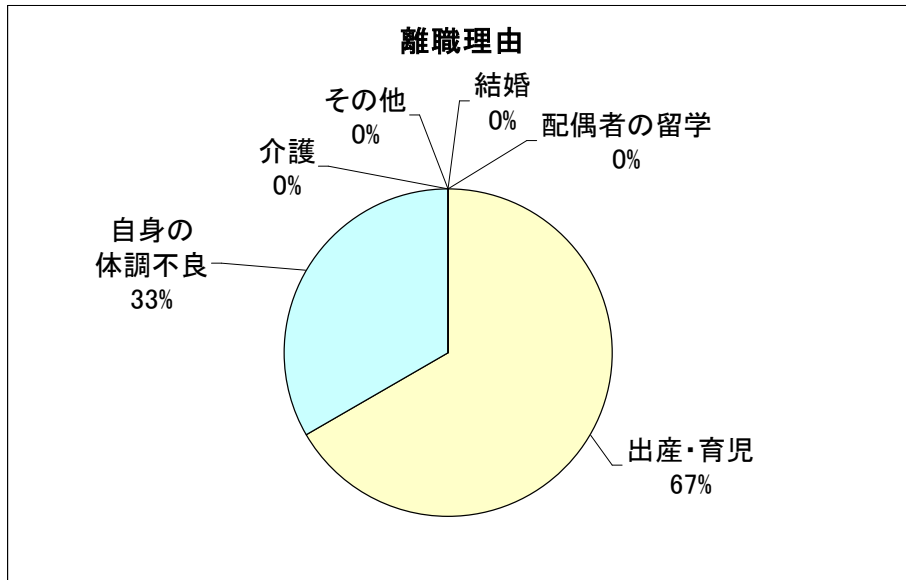
3. 出展病院の取り組み内容は、ご参考になりましたか？



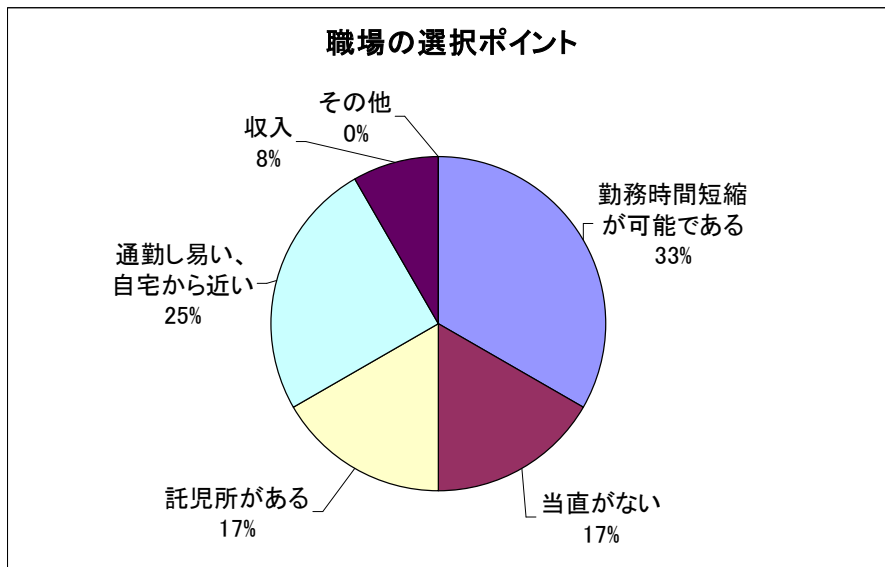
その中で何が一番興味を持たれましたか？

ワークショップ 11名、各病院の取り組み 1名、休職中の給与保障・短時間勤務・フレックス制 1名

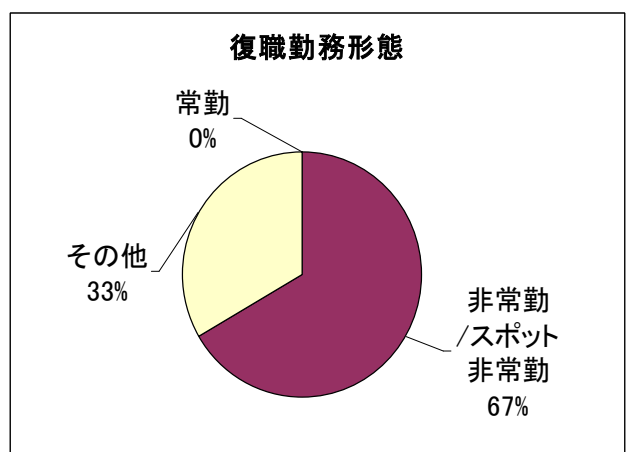
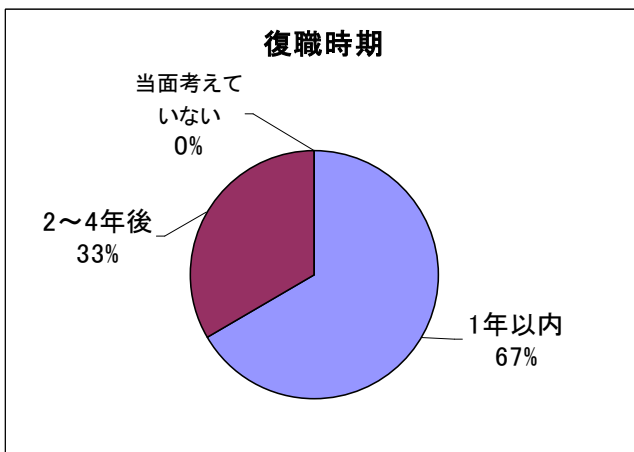
4. 離職の理由は、何ですか？



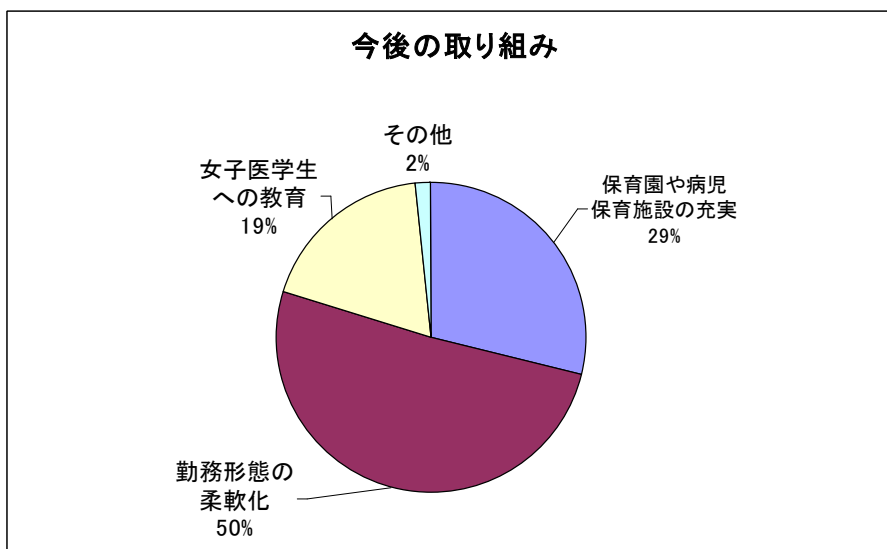
5. 職場を選択する際のポイントは、何ですか？



6. 復職の時期とその形態は、どのようにお考えですか？



7. 今後、どのような取り組みが必要だと、お考えになりますか？



<ご意見>

- ・実際に数年休まれた後に復帰されている方の話を聞いてとても参考になった。今後は初期研修が義務化された後の方々の例を知ることが出来たらと思う。初期研修を終えた直後に産休を取るのとは可能なのか知りたい。
- ・女性医師問題への取り組みは、現在の小児科・産婦人科医師不足の大きな解決の糸口になると思う。今後もシンポジウムに積極的に参加していきたい。
- ・今後も女性医師の継続(辞めない)就業のための取り組みが必要。
- ・こうしたプロジェクトがあることを知って嬉しい。
- ・所属する科によって状況が全く異なると思うので、科別に取り組みを紹介していただくと、より良いものになると思う。また、病院毎ではなく、大学の医局からも出展があると良いと思う。
- ・女性医師の職務継続は“体力”という点よりも“意欲”が大事だと思う。支援する側も意欲がなく、ただ単に制度を使うだけの医師は、制度をきちんと利用している方へのイメージを悪くし、ワークシェアも進まなくなると思う。ワークシェアはドクターだけではなくパラメディカルとの協力・連携も必要である。人間関係、ソフト面、システム面でどこまで取り組めるかということを考えさせられた。再研修もドクターだけではなく全職員で取り組むというところでは研修医の育成と似ており、キャリアプランと施設の特性が合うようにするにはという点が今後の課題である。
- ・多くの参加者があり、今後も継続されると良いと思った。東京など都市部での開催を進めるとともに、地方での開催も進めると良いと思う。医学生(男女)を対象とした啓発活動も大切だと思う。
- ・まだ学生で、医師になってからのことがあまり分かっておらず、漠然とした不安があったが、スライドでの発表や個別相談が出来、とても有意義な時間となった。
- ・ワークシェアリングというものがあること自体知らなかったのでも、その実態などを知ることが出来、とても参考になった。女性医師がより社会で活躍するためには、女性医師自身の強い気持ちとそれをサポートする環境が大切だと思う。
- ・ワークシェアリングの実例、各病院での取り組みなど非常に参考になった。日本全国どこに勤務しても情報を共有できるようなシステム、啓発活動の高まりが望ましいと思った。
- ・目がさめる思いで拝聴した。女性ということで差をつけないことを立派に掲げているが、差をつけないというのが、女子更衣室がなくトイレで着替えたり、当直回数を男性と同じかそれ以上として、「疲れた」と一言でも言うと、女で無理なのだから仕事を辞めればと言われ、男性以上に弱音を言うことが出来ない今の職場に我慢していることの無意味さを知った。いくら頑張っても女医ということで、無責任・非常識と言われ、女は使い物にならないと言っている現職場は時代遅れであることを痛感した。
- ・このような場があるという事を、もっと多くの女性医師に知って頂きたいと思った。